

## 令和6年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年12月11日（水）
2. 場所：AP名古屋 会議室B+C+D
3. 出席者：藤田委員長、奥野委員、粕谷委員、西條委員、辻本委員、中村委員、朴委員、長谷川委員、松尾委員

### 4. 議事

#### （1）ダム等の定期報告（案）

- 1) 美和ダム
- 2) 小渋ダム
- 3) 阿木川ダム

#### （2）その他報告

- ・令和5年年次報告（案）
- ・令和6年度の主な出来事

#### （3）審議概要の確認

## 美和ダム定期報告

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた美和ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、美和ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、美和ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i ) 防災操作

- ・特になし

#### ii ) 利水（発電）

- ・美和ダムと小渋ダムは似たような地域にあるため、両ダムを比較できるような整理だとよい。

#### iii ) 堆 砂

- ・特になし

#### iv ) 水 質

- ・流況および水温についても時系列で示し、水質変化との関係を理解し易くするとよい。

#### v ) 生 物

- ・オオクチバス等の特定外来生物による生態系への影響は、個体数の増減ではわかりづらい。今後、他の生物への影響についても留意してほしい。

#### vi ) 水源地域動態

- ・特になし

○定期報告書(案)については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

## 小渋ダム定期報告

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた小渋ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、小渋ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、小渋ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i ) 防災操作

- ・ダム計画における最大放流量は梅雨期  $500\text{m}^3/\text{s}$ 、台風期の  $370\text{ m}^3/\text{s}$  であることから最大放流量に達していない。判りにくいため工夫した方がよい。
- ・令和 2 年 7 月洪水のグラフでは、流入量に対して土砂バイパスのみで放流させたように見える。コンジットゲートからの放流量も加え、どの程度土砂バイパスを使ったかわかるよう記載するとよい。

#### ii ) 利水（発電）

- ・令和 4 年のかんがい用水取水量が増加している理由が分かるとよい。
- ・美和ダムと小渋ダムは似たような地域にあるため、両ダムを比較できるような整理だとよい。
- ・当初の計画値と比較してかんがい用水取水量がどう変化しているか分かるとよい。

#### iii) 堆 砂

- ・特になし

#### iv) 水 質

- ・流況および水温についても時系列で示し、水質変化との関係を理解し易くするとよい。
- ・令和 4 年のクロロフィル a 上昇の主な要因は、出水に伴う T-P の流入負荷増大と共に、回転率が低かったことが考えられる。

v) 生 物

- ・令和4年にブルーギルが大きく減った要因を出水に伴う流失の影響としているが、個体数が5分の1に減少するということは考えにくい。要因は有識者を含めながら確認したほうが良い。

vi) 水源地域動態

- ・特になし

○定期報告書（案）については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

## 阿木川ダム 定期報告について

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた阿木川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、阿木川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、阿木川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i ) 防災操作

- ・下流基準点の表現は正確にすること。

#### ii ) 利水（発電）

- ・特になし。

#### iii ) 堆 砂

- ・特になし。

#### iv ) 水 質

- ・流況および水温についても時系列で示し、水質変化との関係を理解し易くするとよい。
- ・ボーレンバイダーの結果とOECDの判定結果より曝気循環設備の運用の効果を確認できる。
- ・曝気効果の判断基準について、細胞数でみる方法も考えられる。

#### v ) 生 物

- ・特になし。

#### vi ) 水源地域動態

- ・特になし。

○定期報告書(案)については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。